

# ハンノキ

*Alnus japonica*

カバノキ科



ハンノキ

## 名前の由来

ハリノキが変化したものだが、ハリノキの語源は不明。開墾を意味する墾（ハリ）から出たとする説がある。漢字名：榛の木

## 形態的特徴

樹高20m。葉は卵状長楕円形、長さ5～13cm、不整鋸歯縁、互生する。雌雄同株。雄花序は褐紫色、尾状で長さ4～8cm、枝先に下垂、雌花序は紅紫色、長さ3～4mm、4月に開花。果実は卵状楕円形、長さ15～20mm、9～10月成熟。

類似種との見分け方：ハンノキの葉の形が長楕円形などで区別する。また、ある程度幹が直立し、枝の先に葉や花がつくため、広げかけた傘のような樹形をしている。



ハンノキの花

ハンノキの花

ハンノキの実



ハンノキの葉。長楕円形で浅いギザギザがある



ハンノキの樹形。幹が直立する

ハンノキの樹皮。不規則に浅く裂けてはがれる

ハンノキの冬芽。黄褐色、ハンノキの枝先の葉ははっきりと柄がある

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

## 生育環境・分布

原野の湿地があった所や川岸。

**分布：**国外分布は、樺太、中国大陸、朝鮮、南千島など。  
国内分布は、北海道、本州、四国、九州、沖縄。北海道内分布は、全域か。

## 繁殖生態・寿命

4月に開花。果実は卵状楕円形、長さ15～20mm、9～10月成熟。寿命は不明。

## 他生物との関わり

ミドリシジミ幼虫の食樹。

十勝地方生育状況は、全域、特に湿地があったところ。



ミドリシジミ(左がオス、右がメス)。  
幼虫時、ハンノキを食樹とする (標本-吉原利之氏所蔵)

## 植栽関係

土壌：埴質壤土、弱湿性～耐湿性、過湿地でも根茎の働きは衰えない、通気の悪い土でも耐える、pHは弱酸性～中性、堅密度は中程度。陽性木。樹齢50年で、直径23cm、樹高8m、根系の最大深度130cm、根の広がり半径1m。根の

支持力は中程度。移植は易しいが、細根を大切に扱う必要がある。植え付けは発葉前か落葉後。根粒菌を有するので、肥料木としても利用される。切り株からは萌芽することは少ない。

## 興味深い話

■公園樹などに用いられる。樹皮・球果からは染料やタンニンを採る。材は建築、器具、家具、薪炭用。護岸用に植えたりする。また根粒菌を有するので、肥料木としても利用される。

■十勝地方のアイヌ語では「ニタツケネ」という。



冬のハンノキ。実や花が枝先でランプシェードのように包む



冬のハンノキ

## 配慮事項

樹齢50年で、直径23cm、樹高8m、根系の最大深度130cm、根の広がり半径1m。根の支持力は中程度。移植は易しいが、細根を大切に扱う必要がある。

### 参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989  
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996  
「新装版 樹木根系図説」苅住昇 誠文堂新光社 1987  
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990  
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992  
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社

1978

「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981  
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994  
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物～レッドデータブック 植物I (維管束植物)」環境庁野性生物課 2000  
「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976  
萌芽更新を利用した広葉樹の施業 佐藤俊彦 光珠内季報 116 p:14～p:17 1999

魚類

底生動物

爬虫類  
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ